

東京国立博物館

日本画家・平山郁夫が歩んだ人生の生き方は、私の憧れであり尊敬する人物の一人でもある。彼は芸術の道一筋に専念する傍ら、時代と共に世界各地で危機に瀕している貴重な文化遺産保護に尽力している。そしてそれらの文化遺産を保護していくためには、信仰心と重なる平和への強い祈りが大事だと考えた。その信仰を仏教と重ね合いインドから中国を経て、我が日本に伝来されて行く過程に注目。更にシルクロードの遺産を隈なく旅し、その眼で見たものを肌と心で感じて筆を取ったに違いない。私は彼の絵のタッチや構図が大好きである。作品の全てに興味を持っているが、強いて言うなら「砂漠とラクダ」を描いたものに、限りない人間の夢とロマンが広がって行くのを感じている。



東京国立博物館は上野公園の一角にあった。特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」を見学させて頂いた。日本で最初に出来たこの博物館には、日本と東洋の美術と考古の様々な作品が保管されており、その数は11万件（国宝87件、重要文化財622件）を超える。

敷地面積も広く本館、東洋館、平成館、表慶館など6つの展示館では常に貴重な文化財を公開していた。そして展示に纏わる講座、講演、ワークショップなども行っている。これら建物の数からしてもさすが日本が誇る博物館であった。その歴史は明治5年からスタートしており今年で137才になる。これまで多くの人を魅了したこの場所に感謝したい。 撮影 2011年冬



